

(別紙5)

# 調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	20 年12月 5日
調査実施の時間	開始 10 時00分 ~ 終了 14 時50分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームやわらぎ 福島県
-------------------	--------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>大野 恒夫</u>
	氏名 <u>熊谷 まゆみ</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>安部 久美子</u> ヒアリングを行った 1人

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

### 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0770800316
法人名	社会福祉法人 啓和会
事業所名	グループホーム やわらぎ
所在地	福島県喜多方市東桜が丘一丁目136番地 電話 0241-21-8711
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1-2-13
訪問調査日	平成20年12月5日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中に位置し、広い畑があり畑仕事や収穫を楽しむことが出来る。地域の一員として地区の総会、地区の清掃、花植えに参加するなど地域とのつながりも深まってきている。週1回の訪問看護ステーションの訪問など健康管理にも配慮されている。外部研修への参加、定期的な内部研修が実施されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有、災害対策など、外部評価の結果を職員会議に報告し、話し合い、改善に向けて取り組んできたが、重度化や終末期に向けた方針の共有など一部は改善されたが、十分な取り組みといえない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>職員間で話し合い、自己評価を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5）</p> <p>事業所からの報告とともに、委員との意見交換を行っている。地区の総会への参加、地区の清掃作業への参加など委員からのアドバイスを得て実践している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>家族会の総会、行事、訪問時に家族の希望や要望を聞くようにしており、出された意見等はミーティング等に報告し、検討の上、サービスの向上につなげるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>職員が地区の総会に出席して認知症の説明をしたり、地区の清掃や花植えに参加するなど地域の一員として活動に参加している。</p>

【情報提供票より】（20年11月1日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日
ユニット数	1ユニット   利用定員数計 9 人
職員数	7人   常勤7人, 非常勤 人, 常勤換算6, 2)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費	円
敷金	有 (円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当た 760 円		

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	8名	男性 2名	女性 6名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3		要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	87.5 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 日新会 入澤病院
---------	-----------------

## 2. 調査報告書

主任調査員氏名 大野 恒夫 / 同行調査員氏名 熊谷 まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間での話し合いで「住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を送れるよう支援します」という理念を作り上げたが、理念に対する考え方、地域密着型サービスの意義等に対する理解が不十分である。	○	理念に対する考え方、地域密着型サービスの意義等について話し合いを行い、理解を深めてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室にケア目標を掲げ、日々取り組み、職員会議で先月の取り組みの反省という形で話し合いを行っているが、理念に添った実践となっているかの話し合いが不十分である。	○	日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度等）で、実践が理念に添ったものになっているか、理念と結びつけながら話し合う場を充実させてほしい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員が地区総会に出席して認知症について説明したり、地区の清掃や花植えに参加するなど地域の一員として活動に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で話し合いを行い、自己評価を行った。外部評価の結果を受けて改善に向けた取り組みを行い一部は改善されたが、十分な取り組みとは言えない。	○	評価で出された課題について改善計画シートを作成し、改善に向けた取り組みの進捗管理を行うことなどを検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的開催され、事業所からの報告とともに委員との意見交換を行っている。地区の清掃作業、地区総会への参加など委員からのアドバイスにより実践している。</p>		
6	9				
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの暮らしぶり、健康状態、受診結果など毎月電話で報告している。金銭収支結果は領収書とともに送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の総会や行事、訪問時に家族の意見や要望を聞くようにしており、出された意見等はミーティング等に報告し、検討の上、サービスの質の向上につなげるように努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員の馴染みの関係については法人にも理解されており、職員の異動を最小限にするよう配慮されている。職員の異動があった場合は、早く利用者との馴染みの関係が築けるよう心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に積極的に参加している。法人が企画する研修、法人内のグループホームの会議、研修など内部研修も定期的開催されている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や市のグループホーム連絡会に加入し、研修や会議に参加している。</p>		
<p><b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>					
<p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b></p>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を尊敬する心、常に相手の気持ちを考えるケアを心がけている。昔のことや料理のことなど利用者から教えてもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族から意向や希望を聞くように努め、利用者の日々の言動などをなるべく詳しく記録し、見直しなどに活かしているが、職員間で共有化する仕組みが完全でない。	○	センター方式の活用を含め、日々の関わりの中でつかんだ気づきや新たな情報を職員間で共有できる仕組みを作ることを検討してほしい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族の意向等を踏まえ、職員間で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリング、担当者会議を行い、家族等の意向を把握し、定期的な見直し、状態変化に応じた見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医、希望する医療機関としている。職員が同行し情報提供を含め適切な受診支援を行っている。受診結果は受診記録表に記録し、薬の変更があった場合等は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針を作成し、家族に説明すると共に、職員間で話し合っている。		
、 <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまな誘導の声かけをしない、居室に入る時は声をかけるなど利用者の誇りやプライバシーを損ねないような対応に配慮している。記録物など個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床が遅く食事を居室で取る人がいたりするなど利用者のペースにそって支援しているが、入浴時間など対応できる時間が決まっていることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で食事の準備や片付けを職員と一緒にいき、職員も一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上の入浴となっているが、職員の勤務体制により対応する時間が午後限定されている。	○	希望する時間に入浴できるように、勤務シフト等を工夫してほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴や出来ることを活かしながら、ホームの暮らしの中で、家事、掃除などの役割をはたしてもらい、畑仕事、散歩などを楽しめるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	食材の買い物、散歩、外食など外出する機会をつくるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の見守りを徹底し、玄関のドアの開閉が察知できるような音の鳴る飾りをつけるなどして、日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中の避難訓練を実施している。避難場所、避難経路については地域の方と話し合い確認している。	○	消防署の協力を得て、地域の人も参加する避難訓練（夜間想定も）の実施、非常用の食料、飲料水、毛布等の確保について検討してほしい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量はケース記録、チェック表に記録し、把握している。食事管理等が必要な利用者の食事について管理栄養士の助言を得ている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と昼敷きの居間は季節の飾りつけがなされ生活感のある共有空間となっている。温度、光の調節も適切になされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、椅子、家族の写真等が持ち込まれ、自分の部屋らしく、居心地よく過ごせるように配慮している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム やわらぎ

記入担当者名 管理者 安部 久美子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。